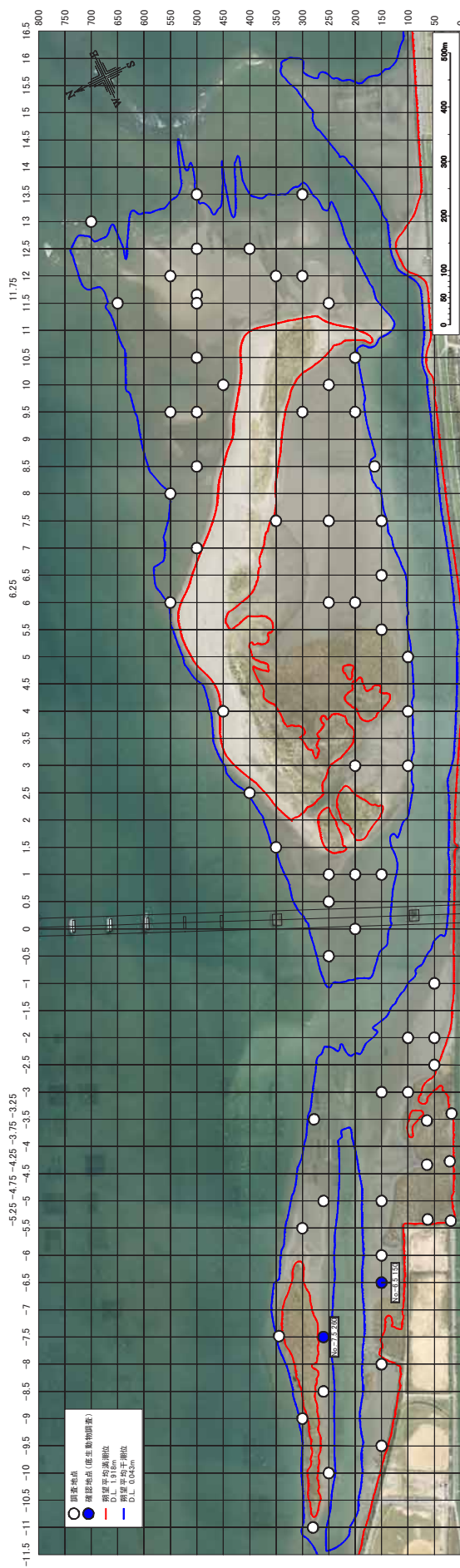




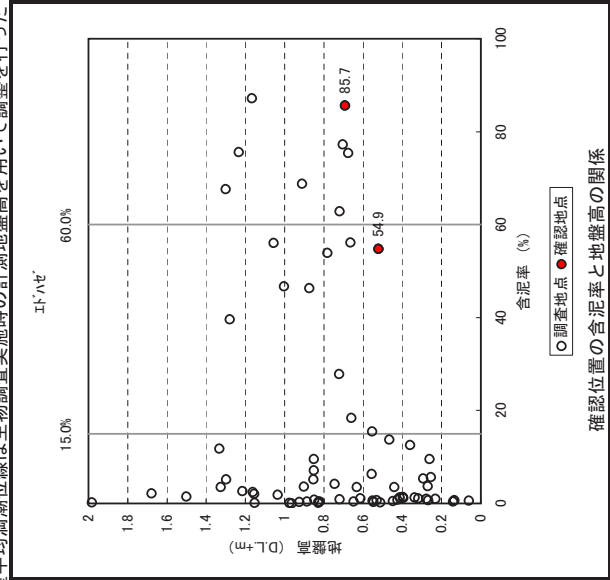
3- 6- 94

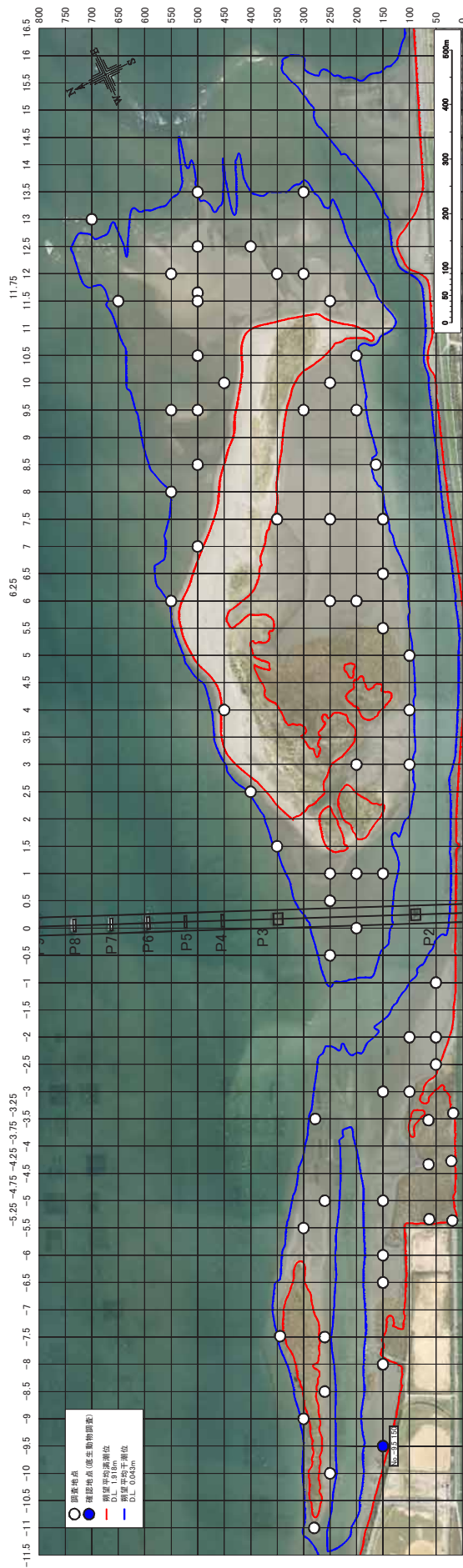
種名	エドハゼ
目科名	スズキ目ハゼ科
学名	<i>Gymnogobius macrognathos</i>
確認状況	
地盤高 (O. L. m)	0.520
含泥率 (%)	54.9
表層微細粒度 (μ m)	D50 : 16.9
分布概要	22.7
確認状況及び確認位置の底質等	国内では宮城県～三重県、兵庫県、大分県、宮崎県、国外では沿海州に分布する。ただし国内産と国外産との種の異同については検討が必要である。 有機的汚泥質の少ない清浄な河口干潟や汽水湖に生息する。砂質の場所にもみられるが砂泥質の場所を好む。二ホンスナモグリ等の生息孔に隠れていることが多いが、採集時には驚くと自ら砂泥に潜る様子が観察される。産卵もスナモグリ類の生息孔内で行うと考えられるが詳しくは不明。
希少性	県内の生息状況
希少性	四国では徳島県吉野川河口域のみから記録されているが、今後調査が進めば瀬戸内海側の吉野川から確認される可能性がある。 吉野川河口域には確認される分布状況はヒモハゼとほぼ同様で、両種は同所的に採集されることが多い。生息数はヒモハゼ、ニクハゼよりも少ない。
希少性	環境省RDB
希少性	徳島RDB
希少性	WWF Japan
希少性	絶滅危惧ⅠB類
希少性	絶滅危惧Ⅰ類
希少性	—

No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	No.-6.5_150	1			
2	No.-7.5_260	1			

※ 底生動物調査（秋）のコードラート調査にて確認。

※底生動物調査(秋)のコロドラーツ調査にて確認。





3- 6- 95

確認状況及び確認位置の底質等	環境省RDB 徳島RDB WWF Japan	絶滅危惧ⅠB類 絶滅危惧Ⅰ類 —
種名	タビラクチ	
目科名	スズキ目ハゼ科	
学名	<i>Apoerythodon punctatus</i>	
確認状況	確認地点数：1地点 確認個体数：1個体	
地盤高 (0 L.m)	0.910	
含泥率 (%)	68.9	
表層微細粒度 (μm)	D50：29.6	
	分布概要	
和歌山県以西の本州、四国、九州に散発的に分布する。有明海とその周辺は主要な産地となっているが、他地域における生息数は少ないようである。国外では朝鮮半島と中国に分布する。 河口付近のシオマネキが生息するような泥干潟に特徴的に生息する。5～7月頃、泥中に掘った穴の中で産卵する。		
	県内の生息状況	
四国では高知県と徳島県だけが知られている。近隣では、徳島県とは紀伊水道を挟んで対岸の和歌山県では加茂川河口と田辺市内之浦からの記録がある。 徳島県における生息確認地は吉野川河口域の住吉干潟のみで、生息数は少なく、まれに採捕される程度である。同じ紀伊水道岸の勝浦川や那賀川河口域にも生息の可能性はあると思われるので、注意する必要がある。		

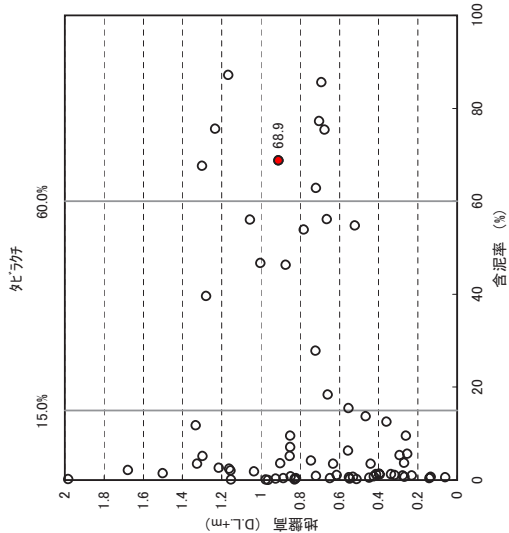
No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	No.-9.5_150	1			

※ 底生動物調査（秋）のコードシート調査にて確認。

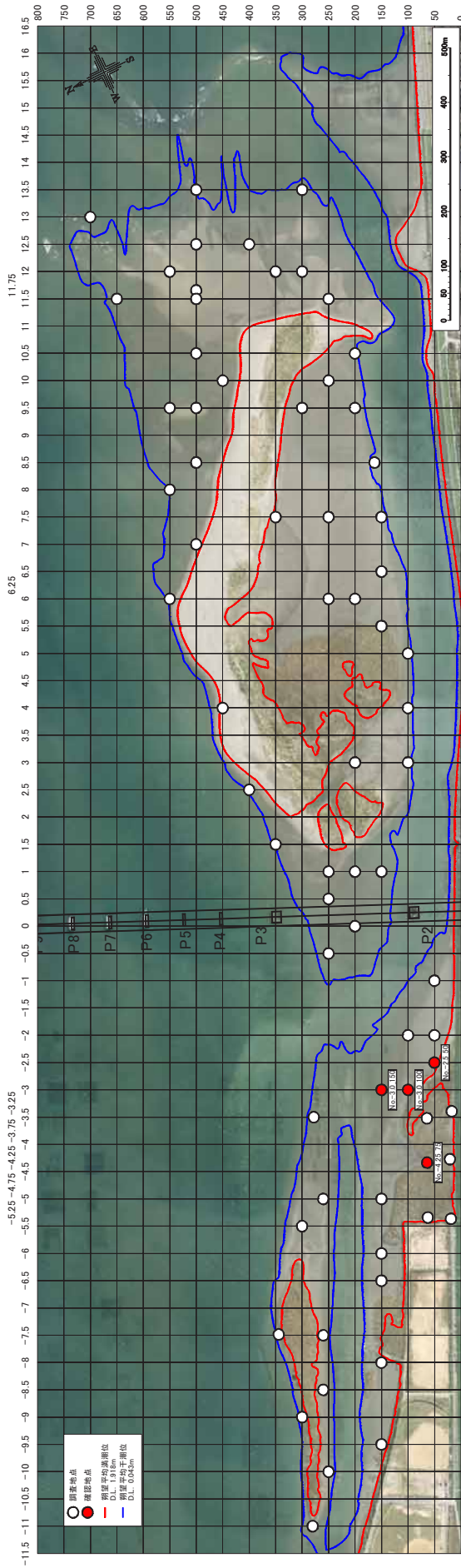
※底生動物調査(秋)のコロドラーツ調査にて確認。



確認位置の含泥率と地盤高の関係



タビラクチの確認状況（10月）
 <航空写真撮影日：平成18年11月1日>



※ 期望平均満潮水位線は生物調査実施時の計測地盤高を用いて調整を行った

No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	No. -2.5_50	48			
2	No. -3.0_100	29			
3	No. -3.0_150	2			
4	No. -4.25_75	1			

確認個体数 (上位20地点)

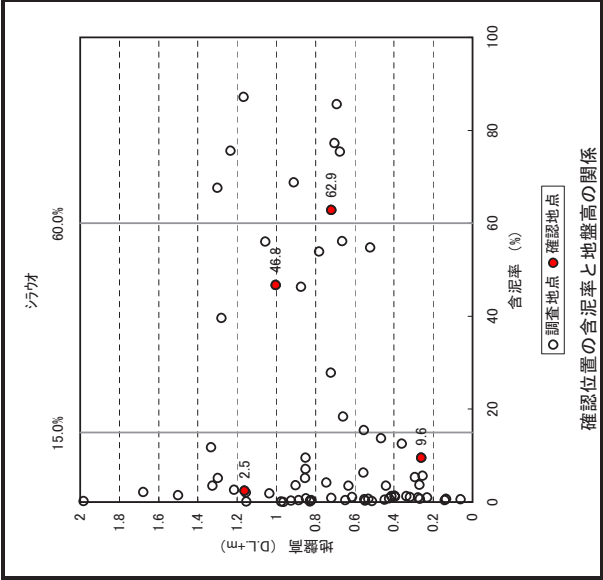


種名	シラウオ
目科名	サケ目シラウオ科
学名	<i>Salangichthys microdon</i>
確認状況	確認地点数：4地点 確認個体数：80個体
地盤高 (D.L.m)	0.260
含泥率 (%)	2.5
表層微細粒度 (μm)	33.6
D50	365.3
分布概要	～

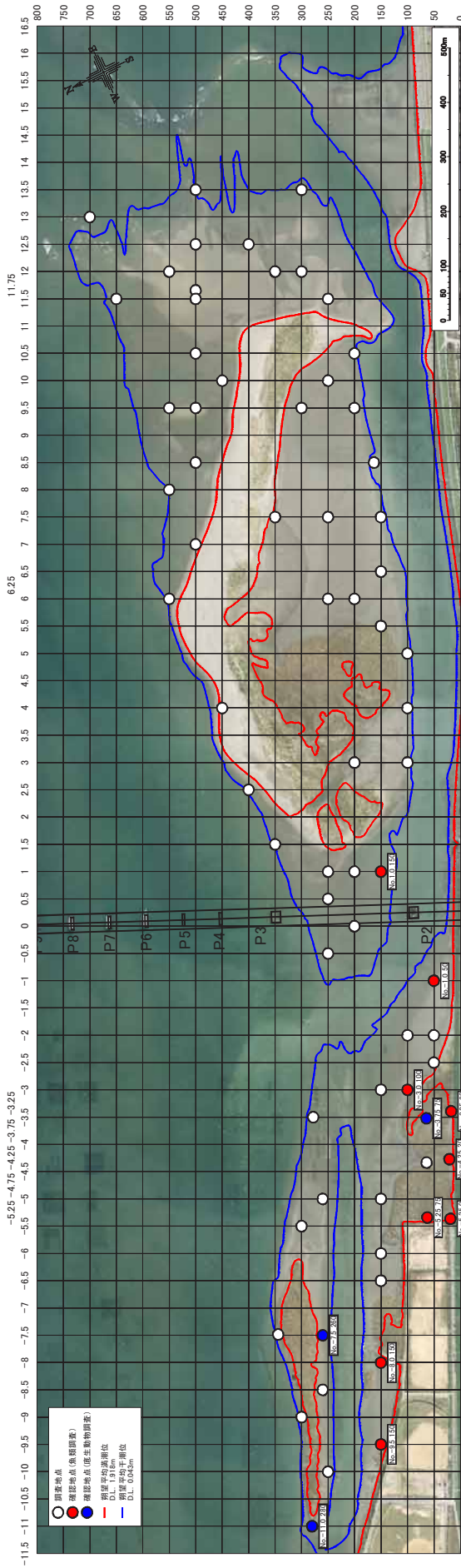
北海道～広島県および徳島県・熊本県に分布する。国外ではサハリン、沿海州～朝鮮半島東部に分布する。徳島県では吉野川河口および勝浦川河口から記録がある。徳島県下では、かつて漁獲の対象になっていたほど多量に生息していたが、現在では漁獲の対象になるほど生息していないこと、勝浦川では河川改修によって産卵場が減少したと考えられることから、かなりの減少傾向にあると考えられる。

県内の生息状況
四国における成魚の記録は徳島県だけに限られる。徳島県では吉野川河口および勝浦川河口から記録がある。徳島県下では、かつて漁獲の対象になっていたほど多量に生息していたが、現在では漁獲の対象になるほど生息していないこと、勝浦川では河川改修によって産卵場が減少したと考えられることから、かなりの減少傾向にあると考えられる。

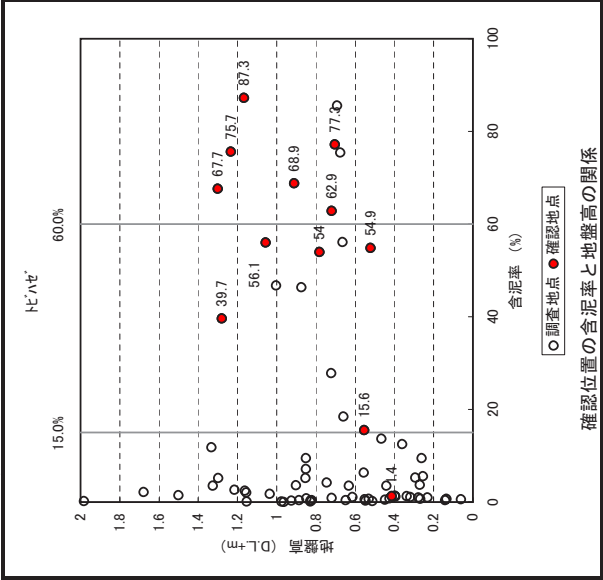
希少性	環境省RDB 徳島RDB WWF Japan
	絶滅危惧Ⅱ類



シラウオの確認状況 (10月)
＜航空写真 撮影日：平成18年11月1日＞



※ 朔望平均満潮位線は生物調査実施時の計測地盤高を用いて調整を行った

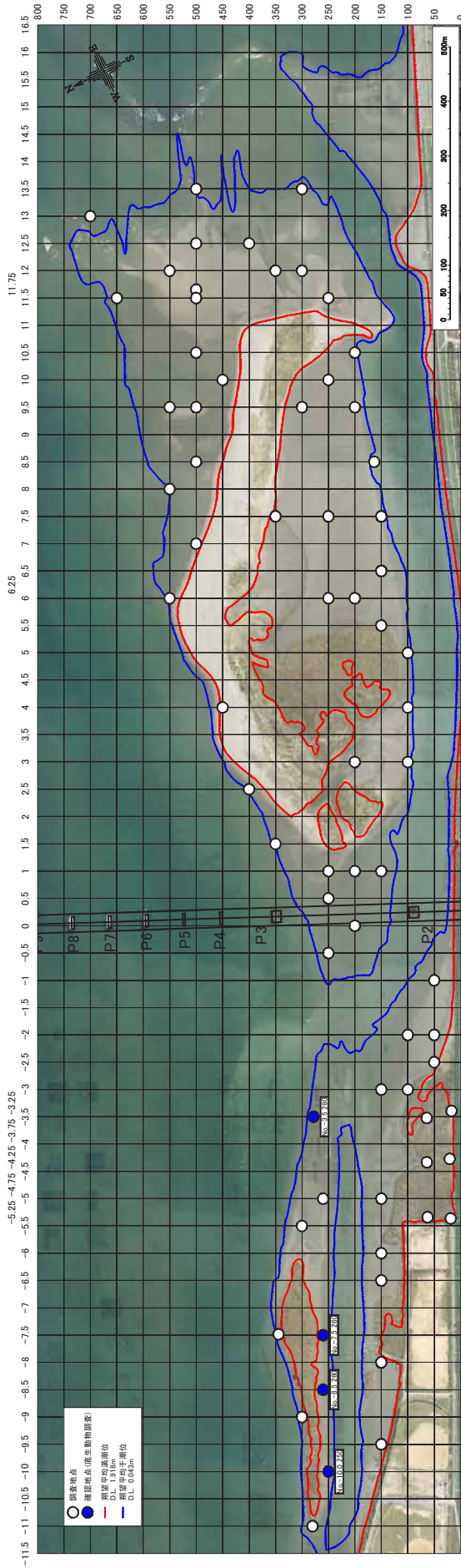


確認個体数		確認地点数		確認個体数	
1	No. -3.25.20	22	1	No. -3.75.75	1
2	No. -4.25.20	12	2	No. -7.5.260	1
3	No. -5.25.0	6	3	No. -9.5.150	1
4	No. -5.25.75	4	4	No. -11.0.280	1
5	No. 1.0.150	3			
6	No. -8.0.150	3			
7	No. -9.5.150	2			
8	No. -1.0.50	1			
9	No. -3.0.100	1			

底生動物調査 (秋) のコード
ラート調査にて確認。
確認地点数: 4地点
確認個体数: 4個体



確認状況及び確認位置の底質等	種名	トビハゼ
	目科名	スズキ目ハゼ科
	学名	<i>Periophthalmus modestus</i>
	確認状況	確認地点数: 9地点 確認個体数: 54個体
	地盤高 (D.L.m)	~ 1.299
希少性	含泥率 (%)	~ 87.3
	表層微細粒度 (μm)	D50: ~ 427.4
	分布概要	
希少性	東京湾以西の本州、四国、九州から沖縄まで分布し、国外では朝鮮半島、中国、台湾に分布する。	
	泥または砂や礫の混じった泥質干潟に生息する。春〜秋の干潮時には干潟表面で活発に活動し、5月下旬〜8月中旬に巢穴の中に産卵する。冬は巢穴の中で越冬する。	
	県内の生息状況	
	四国では4県ともに分布する。	
	徳島県では紀伊水道側の吉野川 (旧吉野川を含む)、勝浦川、那賀川の河口干潟に生息する。ただし旧吉野川での生息は少ない。また、園瀬川の法花大橋〜大野大橋の間でもまれに見られることがあるが、幼魚のみで成魚は生息しない。橋湾岸など、かつては紀伊水道に面した内湾や河口付近で広く生息していたと考えられるが、現在では港湾の整備や埋立、淡水化するための水門の設置等によって生息地となる干潟そのものが失われている。	
希少性	環境省RDB	地域個体群
	徳島RDB	絶滅危惧Ⅱ類
	WWF Japan	—



※ 期望平均満潮水位線は生物調査実施時の計測地盤高を用いて調整を行った

確認個体数		ヒモハゼ	
No.	地点名	個体数	地点名
1	No. -3.5_280	2	
2	No. -10.0_250	2	
3	No. -7.5_260	1	
4	No. -8.5_260	1	

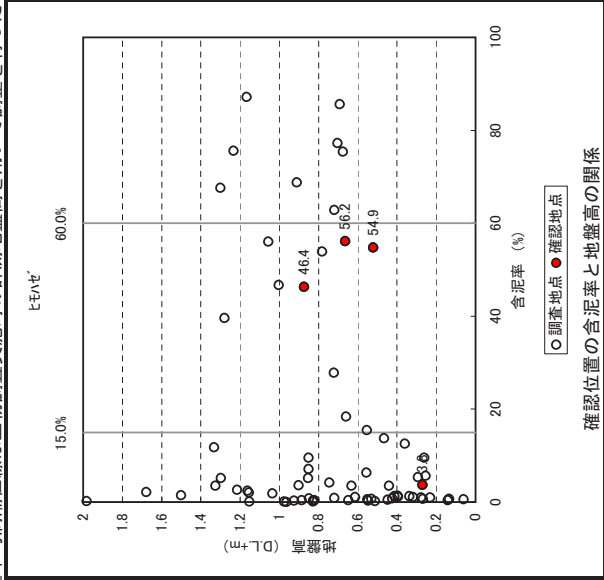
※ 底生動物調査（秋）のコードラート調査にて確認。

種名	ヒモハゼ
目科名	スズキ目ハゼ科
学名	<i>Eutaenichthys gilii</i>
確認状況	確認地点数：4地点 確認個体数：6個体
地盤高 (D.L.m)	0.270
含泥率 (%)	3.9
表層微細粒度 (μm)	D50：16.9
分布概要	

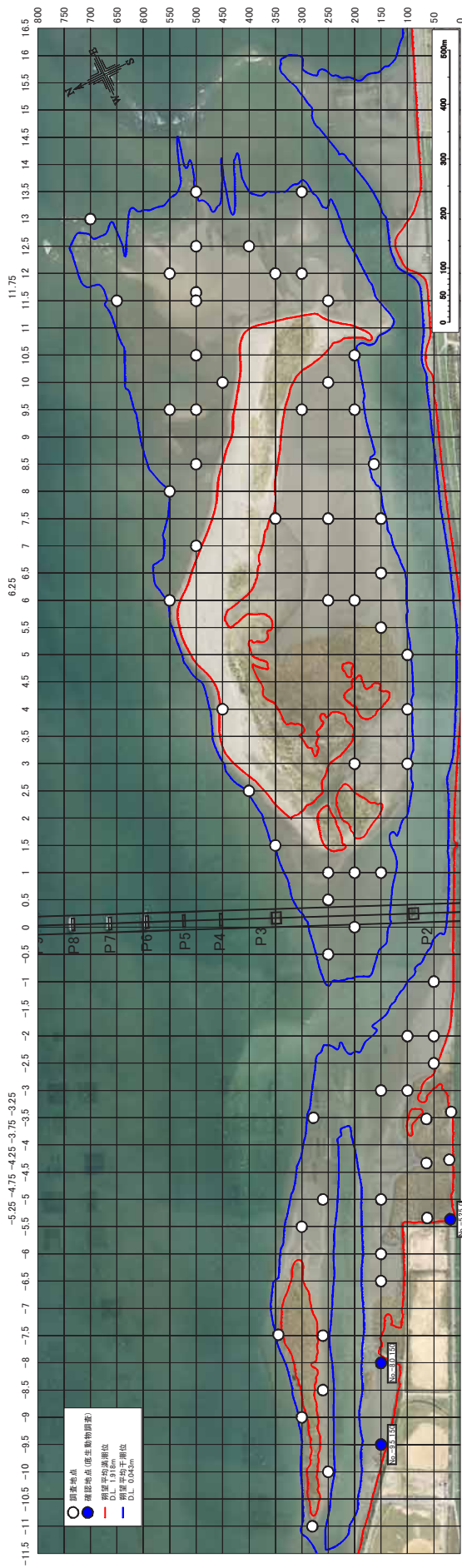
国内では青森県～西表島、国外では朝鮮半島、渤海、黄海に生息する。砂質を多く好み汚濁の少ない清潔な河口干潟に生息する。ヨコヤアサジャコ等の生息地に隠れているか、砂に潜っていることが多く、まれに水面近くを遊泳する姿を見かける。生活史の詳細については不明であるが、徳島県での産卵期は5～8月頃とされ、寿命は2年以上と考えられている。動物プランクトンや珪藻類、小型の底生動物を食べる。

徳島県では吉野川、旧吉野川の河口域から確認されている。しかし、吉野川での分布は鮎喰側合流部より下流に、旧吉野川の分布は河口堰下流に限られており、両河川共分布域は狭い。ただし、吉野川河口域での生息数は多く、四国最大級の生息地となっている。

希少性	該当なし
環境省RDB	準絶滅危惧
徳島RDB	—
WWF Japan	—

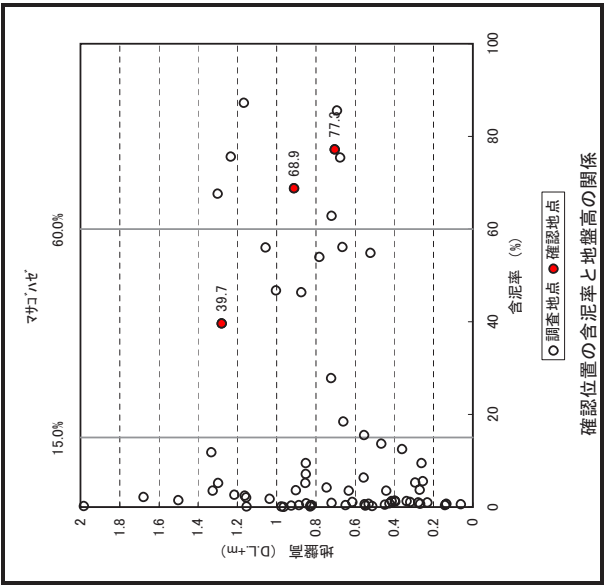


確認位置の含泥率と地盤高の関係

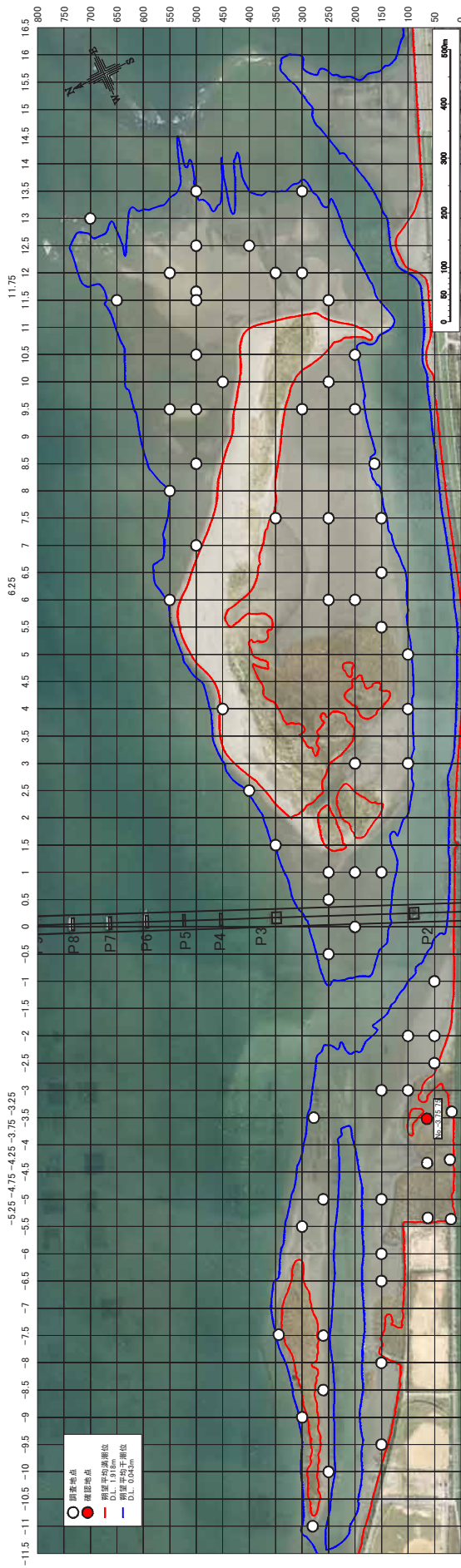


確認状況及び確認位置の底質等	種名	マサゴハゼ		
	目科名	スズキ目ハゼ科		
	学名	<i>Pseudogobius masago</i>		
	確認状況	確認地点数：3地点 確認個体数：9個体		
	地盤高(D.L.m)	0.703	～	1.279
確認位置の底質等	含泥率(%)	3.97	～	71.3
	表層微細粒度(μm)	D50：16.4	～	35.3
	分布概要			
確認位置の底質等	国内では茨城県～九州、南西諸島、国外では朝鮮半島に分布する。河川河口域や淡水の流入する内湾の砂泥底に生息し、干潮時に形成される浅い水たまり内で多くの個体が観察されている。小型の底生動物やデトリタス等を食べる。産卵期は5～9月中旬と長期に及ぶ。産卵生態については不明であるが、生息環境の特徴から特定の産卵床をつくらず、砂泥底の表面に直接産卵すると考えられている。			
	県内の生息状況			
	四国4県ともに分布する。徳島県では吉野川と勝浦川から知られている。吉野川では生息数が少なく、生息状況の詳細に付いても明らかではないが、勝浦川では河口域に発達するヨシ帯に囲まれた泥干潟に比較的多くみられる。			
希少性	環境省RDB	—		
	徳島RDB	準絶滅危惧		
	WWF Japan	—		

確認個体数(上位20地点)	No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
	1	No.-5.25.0	3			
	2	No.-8.0.150	3			
	3	No.-9.5.150	3			
※ 底生動物調査(秋)のコードシート調査にて確認。						



マサゴハゼの確認状況 (10月)
＜航空写真 撮影日：平成18年11月1日＞



※ 期望平均満潮位線は生物調査実施時の計測地盤高を用いて調整を行った

No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	No. -3.75.75	1			

確認個体数 (上位20地点)

種名	ガンテンイシヨウジ
目科名	スズキ目ハゼ科
学名	<i>Enguraulis japonicus</i>
確認状況	確認地点数: 1地点 確認個体数: 1個体
地盤高 (D.L.m)	1.056
含泥率 (%)	56.1
表層微細粒度 (μm)	D50: 42.9

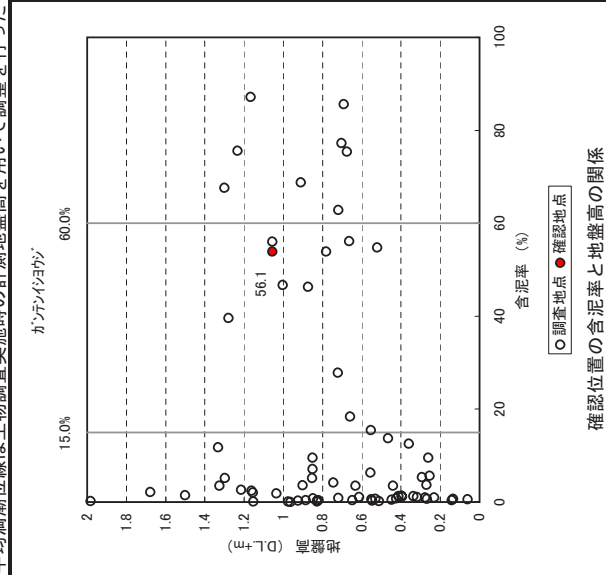
分布概要

紀伊半島から種子島、国外ではアラビア海、東部インド洋～西部太平洋に分布する。河口に隣接する海域および河口でみられるが、塩分濃度の比較的高い河口域下部に生息していることが多い。岩や流木等の物陰や海草の間にひそんでいる。徳島県内での産卵期は7～9月頃である。大潮の雄は育児のうに多数の卵を抱え、卵の孵化後も一定期間にわたって仔魚を保護する。

県内の生息状況

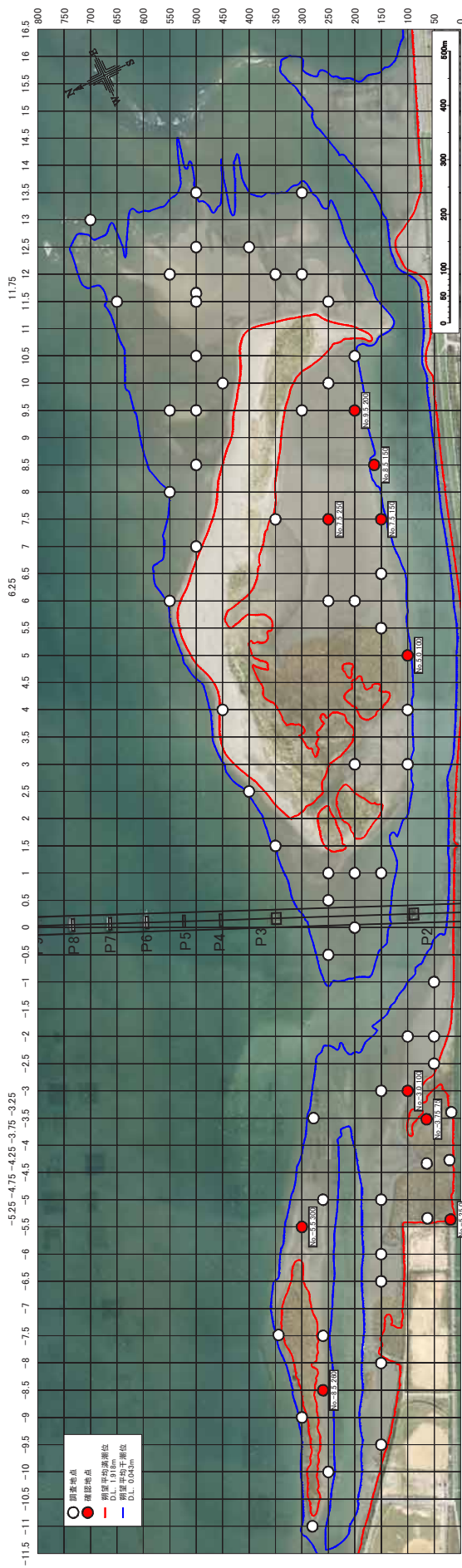
四国各県に分布する。徳島県では吉野川と旧吉野川、勝浦川、那賀川などの河口域で確認されている。生息数は多くはないが、県内河川で確認されているヨウジウオ科魚類4種(他にテングヨウジ、カワヨウジ、ヨウジウオ)の中ではもっとも普通にみられる。本種の県内河川における出現は3～11月と比較的長期に及ぶこと、若魚期上各成長段階の個体が確認されていることから、定着・再生産を行っている可能性が高い。他の3種の再生産については不明である。

希少性	環境省RDB	—
	徳島RDB	留意
	WWF Japan	—



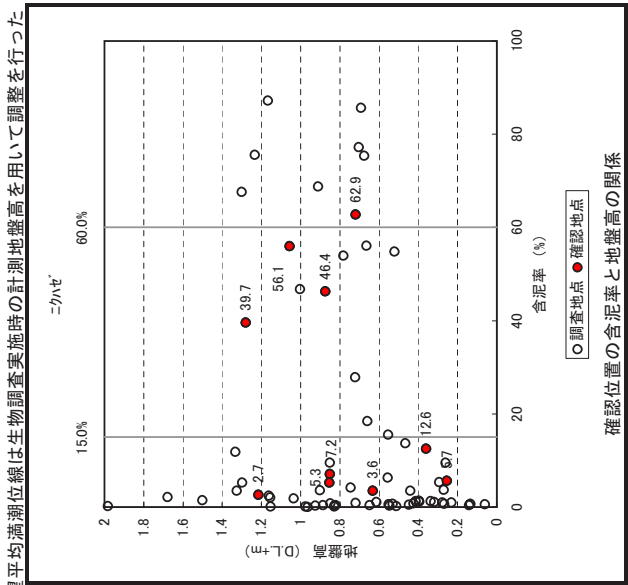
確認位置の含泥率と地盤高の関係

ガンテンイシヨウジの確認状況 (10月)
 <航空写真 撮影日: 平成18年11月1日>

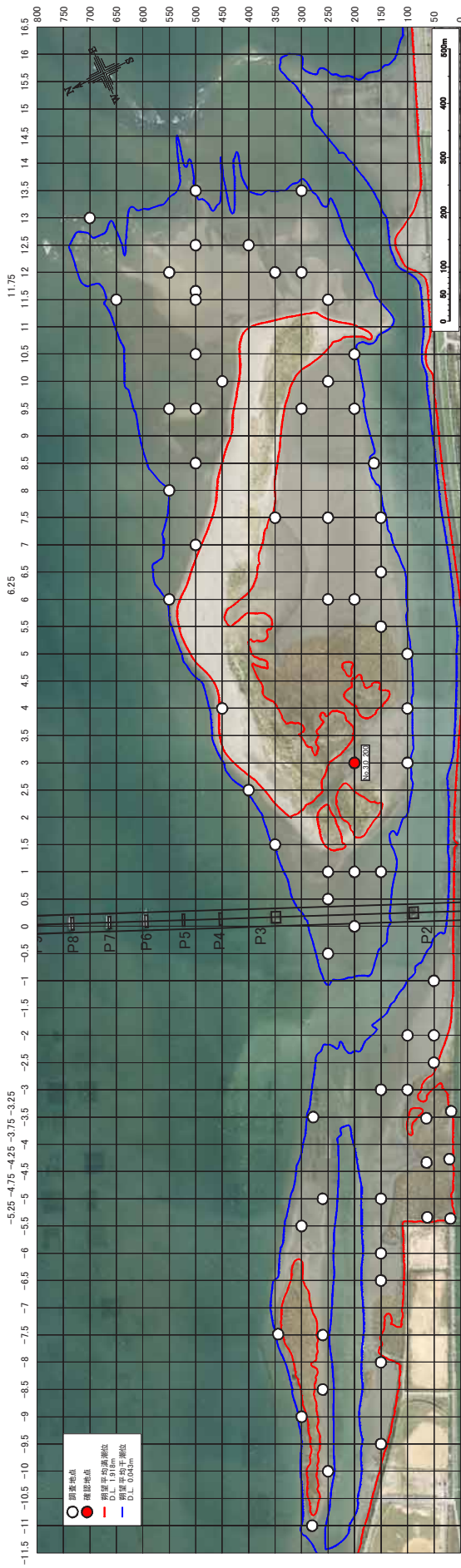


確認状況及び確認位置の底質等	種名	ニクハゼ
	目科名	スズキ目ハゼ科
	学名	<i>Gymnogobius heptacanthus</i>
	確認状況	確認地点数：10地点 確認個体数：29個体
	地盤高(D.L.m)	0.254
確認位置の底質等	含泥率(%)	2.7
	表層微細粒度(μm)	D50：16.4
	分布概要	～ 1.279 ～ 62.9 ～ 407.9
	県内の生息状況	
	国内では北海道～九州、国外では沿海州、朝鮮半島、中国に分布する。波の穏やかな内湾の岸近くや河口域に生息し、砂泥質でアマモ類の繁茂水域を好む。群れで中層を遊泳し、ヤムシ類や甲殻類幼生等の動物プランクトンを食べ。著者の観察によると、驚くと砂に潜る行動をとる。産卵生息については不明であるが、産卵期は九州地方で2～5月と推定されている。1年で成熟し、産卵後は死亡する年魚と考えられている。	
希少性	四国では本県、他、愛媛県からも記録されている。四国周辺の瀬戸内海地方に多いことから、香川県にも生息する可能性が高い。	
	徳島県内では、吉野川、旧吉野川、今切川、洲川の各河口域から確認されているが、紀伊水道側の諸河川と沿岸域には多く分布するものと思われる。吉野川河口域における分布はエトハゼ、ヒモハゼとほぼ同様で、吉野川橋付近の砂泥質の干潟での生息密度が最も高い。	
	環境省RDB	—
WWF Japan	徳島RDB	留意
	WWF Japan	—

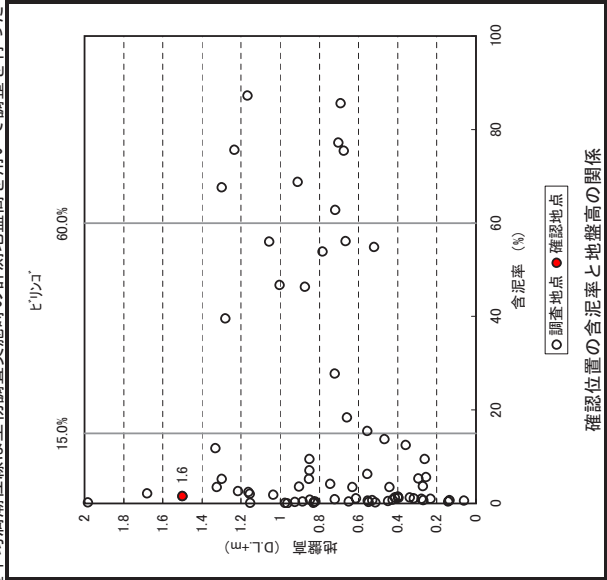
確認個体数(上位20地点)	No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	No. 7.5_150	8				
2	No. 7.5_250	5				
3	No. 8.5_150	4				
4	No. -3.0_100	3				
5	No. -3.75_75	3				
6	No. -5.5_300	2				
7	No. 9.5_200	1				
8	No. 5.0_100	1				
9	No. -5.25_0	1				
10	No. -8.5_260	1				



ニクハゼの確認状況 (10月)
＜航空写真 撮影日：平成18年11月1日＞



※ 朔望平均満潮位置は生物調査実施時の計測地盤高を用いて調整を行った



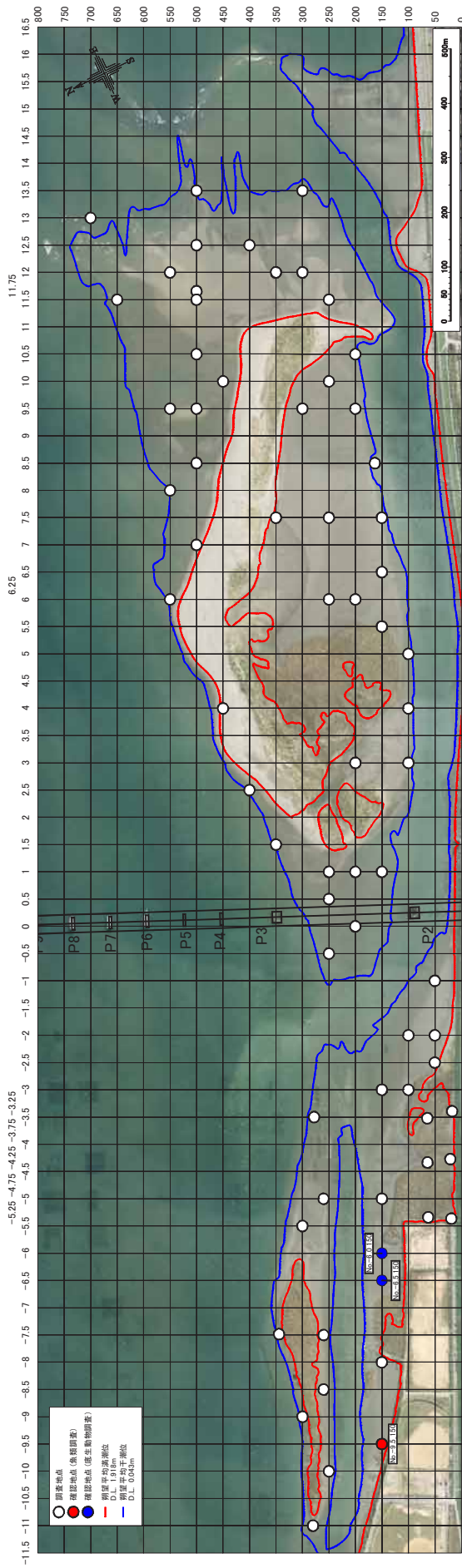
No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	No. 3.0.200	7			

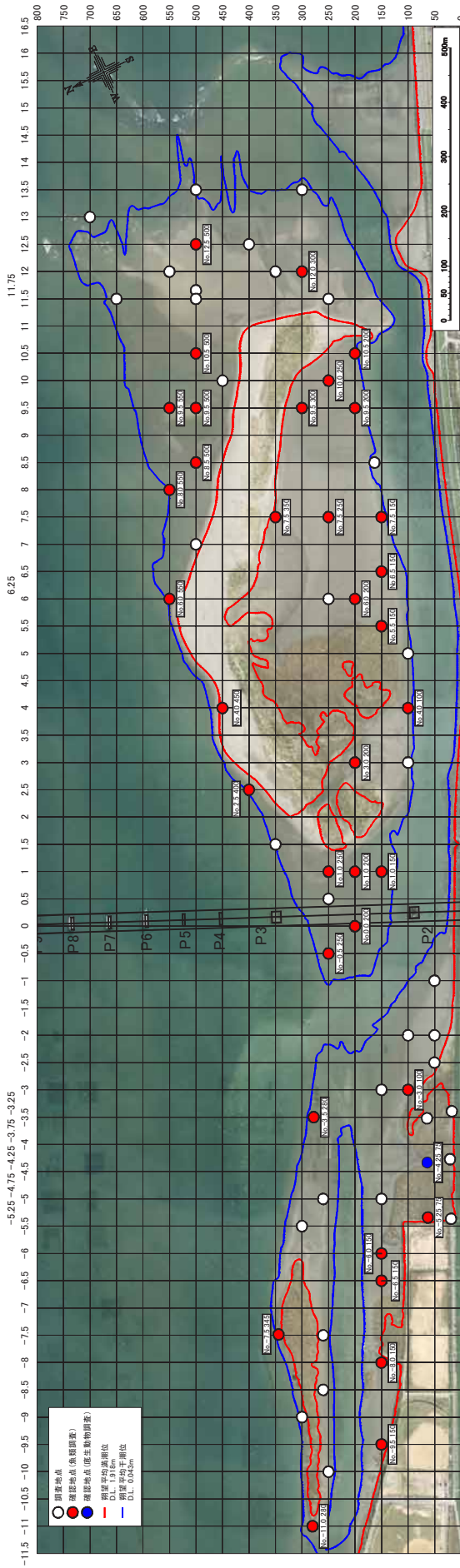
確認個体数 (上位20地点)



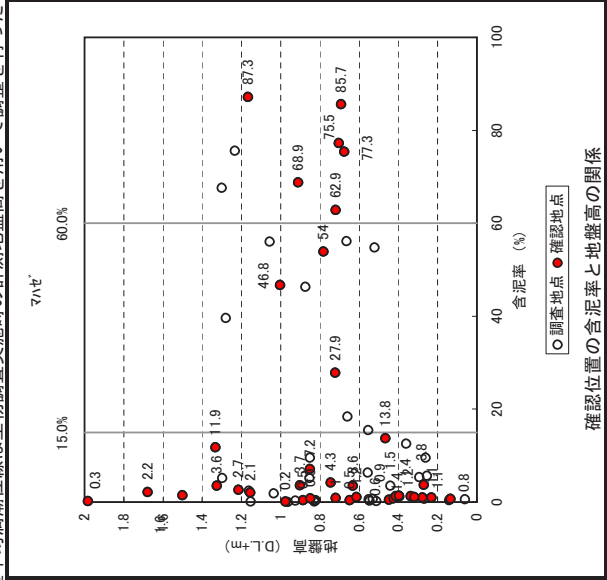
確認状況及び確認位置の底質等	種名	ビリンゴ
	目科名	スズキ目ハゼ科
	学名	<i>Gymnogobius castaneus</i>
	確認状況	確認地点数: 1地点 確認個体数: 7個体
	地盤高 (D.L.m)	1.500
確認位置の底質等	含泥率 (%)	1.6
	表層微細粒度 (μm)	D50: 419.5
	分布概要	
	国内では北海道〜屋久島、国外ではサハリン、色丹島、北海道、朝鮮半島、中国に分布する。	
	河川河口域や汽水湖の砂泥底に生息し、淡水域にはほとんど侵入しない。通常、ヨシ帯の根元周辺や砂泥底にじっとしていることが多いが、中層に群れを成して遊泳することもある。動物食性に偏った雑食性。産卵期は1〜3月頃で、メスの体色が著しく黒化する婚姻色を現す。産卵はヨコアアナジャコ等の生息孔内に行われ、オス親が孵化時まで卵を保護する。	
希少性	県内の生息状況	
	四国では全域に広く分布する。	
	徳島県内では吉野川、那賀川、勝浦川等、河口域がよく発達する河川に生息するが、太平洋側の小河川では少ない。また、汽水域に生息するため分布が潮止堰直下までの範囲に限られていることが多い。ただし、上記3河川での生息数は多い。特に5月頃の吉野川第十堰直下流では若魚が大群で中層を遊泳し、全長10〜20cmのスズキがこれを盛んに捕食する姿が観察できる。	
	環境省RDB	—
	徳島RDB	留意
	WWF Japan	—

ビリンゴの確認状況 (10月)
＜航空写真 撮影日: 平成18年11月1日＞





※ 期望平均満潮位線は生物調査実施時の計測地盤高を用いて調整を行った



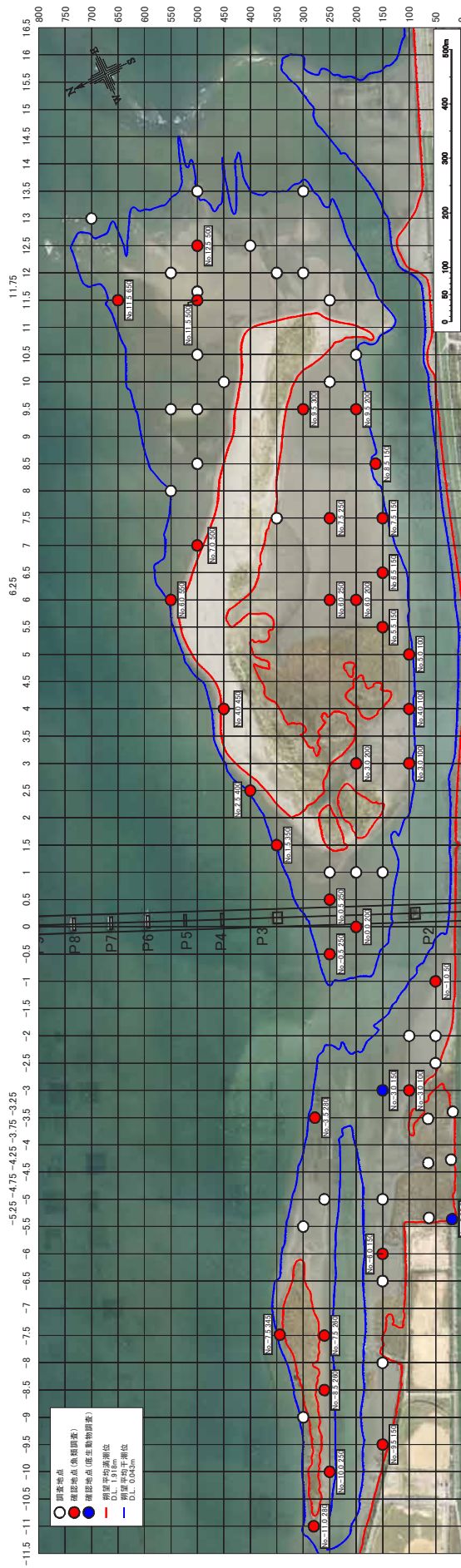
No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	No. 8.5.500	8	11	No. 8.0.550	4
2	No. 7.5.150	8	12	No. 4.0.450	4
3	No. 2.5.400	8	13	No. 4.0.100	4
4	No. 9.5.550	7	14	No. 1.0.250	4
5	No. 10.5.200	6	15	No. 10.5.500	3
6	No. 3.0.200	6	16	No. 10.0.250	3
7	No. 9.5.500	5	17	No. 9.5.200	3
8	No. 9.5.300	5	18	No. 7.5.350	3
9	No. 6.0.200	5	19	No. 7.5.250	3
10	No. 12.5.500	4	20	No. 6.5.150	3

※ 底生動物調査(秋)のコドラート調査にて
1地点、1個体を確認。

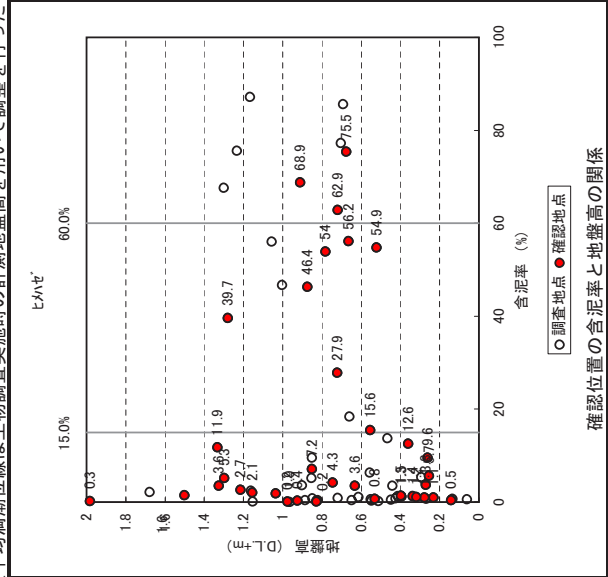


確認状況及び位置の底質等	種名 マハゼ スズキ目ハゼ科 <i>Acanthogobius flavimanus</i> 確認地点数：38地点 確認個体数：130個体 地盤高(D.L.m) 1.982 含泥率(%) 87.3 表層微細粒度(μ m) D50：20.1 分布概要 北海道の太平洋・日本海川～種子島、瀬戸内海、隠岐、対馬、五島列島、国外では沿海州、朝鮮半島、渤海、黄海に分布する。 内湾から河川の河口にかけて生息し、泥質に、成魚は単独で見られる。
確認位置の底質等	特徴 頭が大きく、吻がやや長い、尾鰭基底の黒色斑が二又しない、尾鰭に多数の暗色点がある。成熟しても体側に白色模様がない。雄の第1背鰭棘が伸長しないなどで日本産同属他種と区別可能。
希少性	環境省RDB 希少 徳島RDB WWF Japan —

マハゼの確認状況(10月)
＜航空写真 撮影日：平成18年11月1日＞



※ 期望平均満潮位線は生物調査実施時の計測地盤高を用いて調整を行った

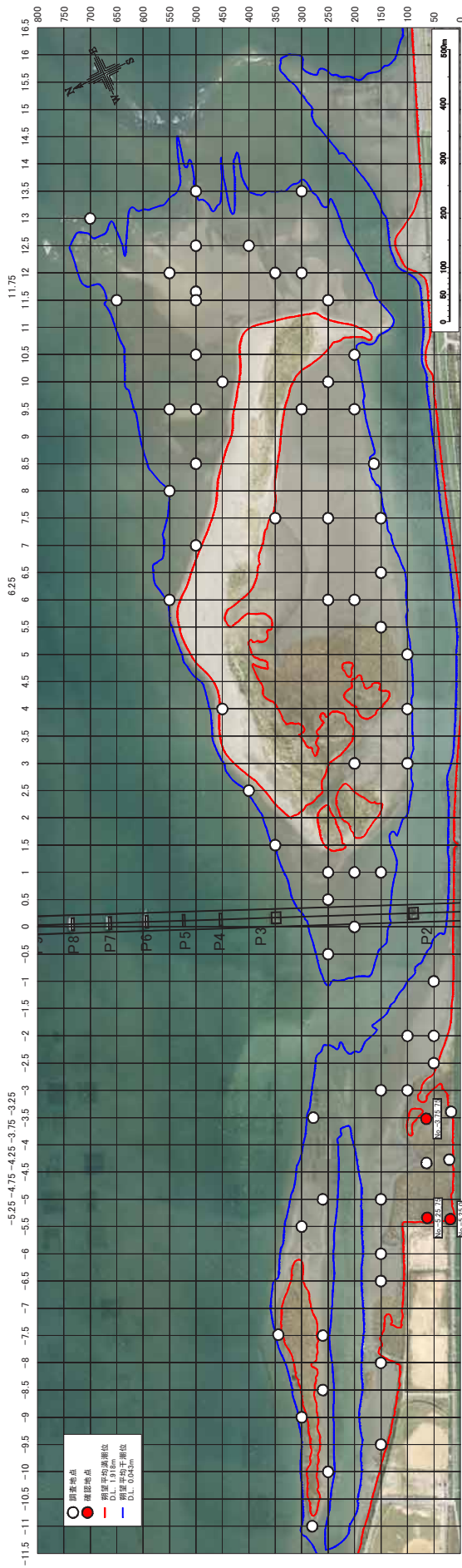


No.	確認個体数	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	121	No. 0.5_250	11	11	No. 4.0_450	5
2	73	No. -0.5_250	12	12	No. 9.5_300	4
3	12	No. 8.5_150	13	13	No. 9.5_200	4
4	12	No. 0.0_200	14	14	No. 6.0_550	4
5	7	No. 2.5_400	15	15	No. 1.5_350	4
6	7	No. -3.5_280	16	16	No. 4.0_100	3
7	7	No. -11.0_280	17	17	No. -1.0_50	3
8	6	No. 7.5_150	18	18	No. -3.0_100	3
9	6	No. 5.0_100	19	19	No. 12.5_500	2
10	5	No. 7.5_250	20	20	No. 6.5_150	2

※ 底生動物調査(秋)のコードシート調査
確認地点数: 5地点、確認個体数6個体



確認状況及び確認位置の底質等	種名	ヒメハゼ
	目科名	スズキ目ハゼ科
	学名	<i>Favonigobius gymnauchen</i>
	確認状況	確認地点数: 34地点 確認個体数: 306個体
	地盤高(D.L.m)	~ 1.982
希少性	含泥率(%)	~ 75.5
	表層微細粒度(μ m)	D50: 16.4
	分布概要	北海道の太平洋・日本海側～西表島、瀬戸内海、国外では朝鮮半島、渤海、黄海、東・西シナ海、台湾、西部太平洋に分布する。内湾や河川の河口域に分布し、砂底や砂泥底に単独で見られる。
環境省RDB 徳島RDB WWF Japan	特徴	体が細長く、頭はやや劣る。尾鰭基底の黒色斑の後半は幼魚のときはやや丸く、成長するにつれ二又するなど、日本産の同属他種と区別可能。雄の第1背鰭第2棘は糸状に伸長するが、雌はしない。



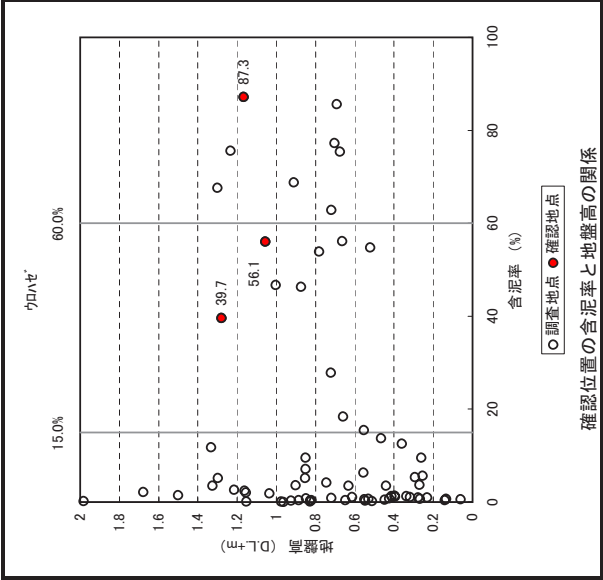
※ 期望平均満潮水位線は生物調査実施時の計測地盤高を用いて調整を行った

No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	No. -5.25_0	15			
2	No. -5.25_75	2			
3	No. -3.75_75	1			

確認個体数 (上位20地点)

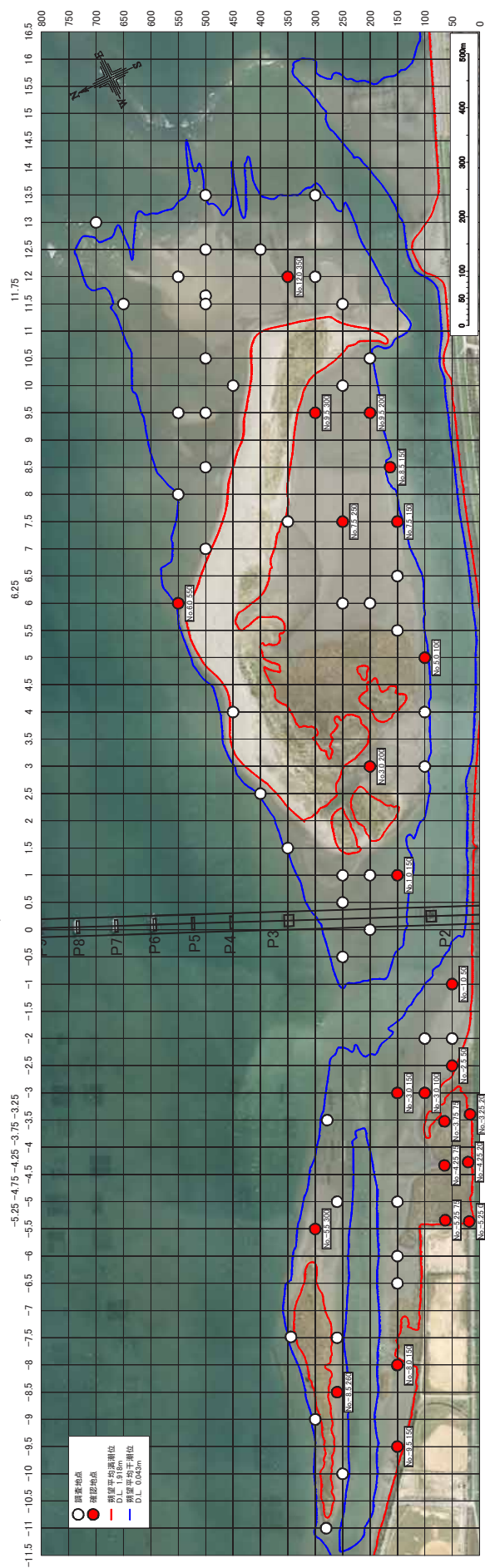


確認状況及び確認位置の底質等	種名	ウロハゼ
	目科名	スズキ目ハゼ科
	学名	<i>Glossogobius olivaceus</i>
	確認状況	確認地点数：3地点 確認個体数：18個体
	地盤高 (D.L.m)	1.056 ~ 1.279
希少性	含泥率 (%)	39.7 ~ 87.3
	表層微細粒度 (μm)	D50 : 16.4 ~ 42.9
	分布概要	
希少性	茨城県・新潟県～九州、瀬戸内海、種子島、隠岐、香波、五島列島、国外で東シナ海、台湾に分布する。河川の汽水域や汽水湖に生息し、砂泥底や泥底に単独で見られる。	
	特徴	
	第1背鰭前方に黒点が散在する。鰭下部に2黒色斑が縦に並び、尾鰭基底にミツキーマウスの頭のような黒色斑があるなどで日本産同属他種特別可能。	
希少性	環境省RDB	—
	徳島RDB	—
	WWF Japan	—

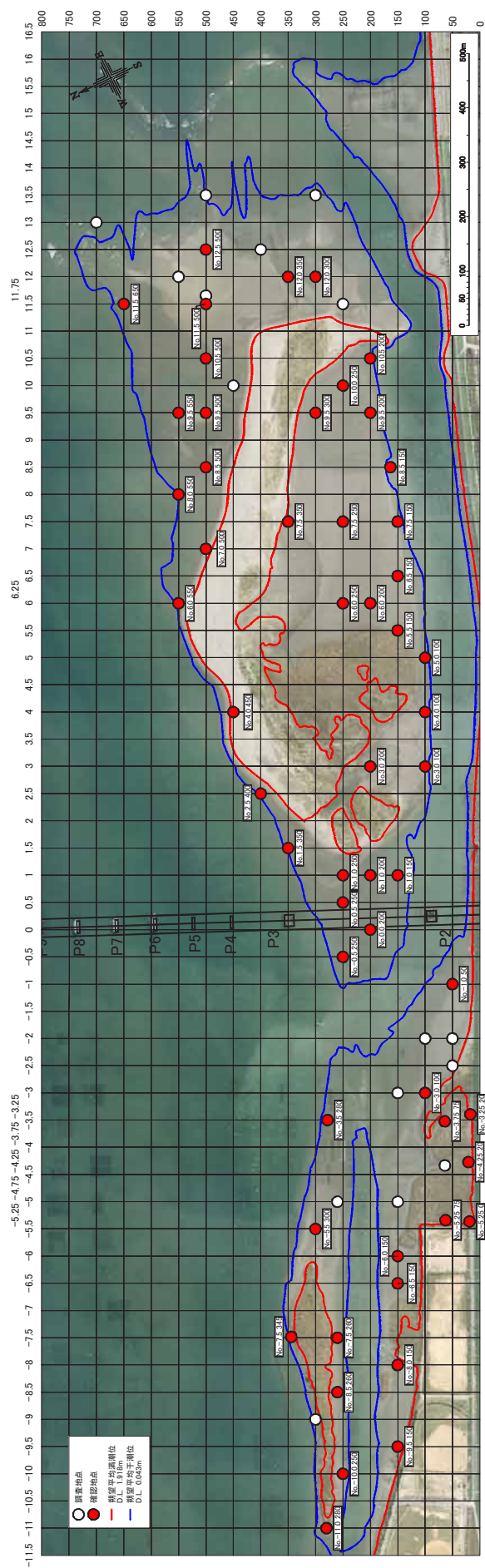


確認位置の含泥率と地盤高の関係

ウロハゼの確認状況 (10月)
＜航空写真 撮影日：平成18年11月1日＞



レッドデータブック記載種確認地点（10月）



※ 朔望平均満潮位線は生物調査実施時の計測地盤高を用いて調整を行った

ハゼ科の魚類確認地点（10月）